日用心法術後篇

下

ロ 9
3456
5

富士吉田市歴史民俗資料館蔵書

日用心法鈔 後篇下目録

一 盗をするハ大損大難大馬鹿の事 二丁
一 武家商ひ世渡安ハふくゝせ一人の事 八丁
一 傑ふまろしき世の中をとどまおごりを一ツ
なるなふまろきゆうふへくるといふ事 十三丁
一 悪事千里ハ天地の目ふおそるゝといふ事 十五丁
一 大盗人江戸ふてたりつけふかくりゝ事 十八丁
一 女のころさまたるもの 廿丁
人間のかきあゝハこれがまたふ不忠不孝の備金とこまがゝふ事 廿二丁
廿六丁

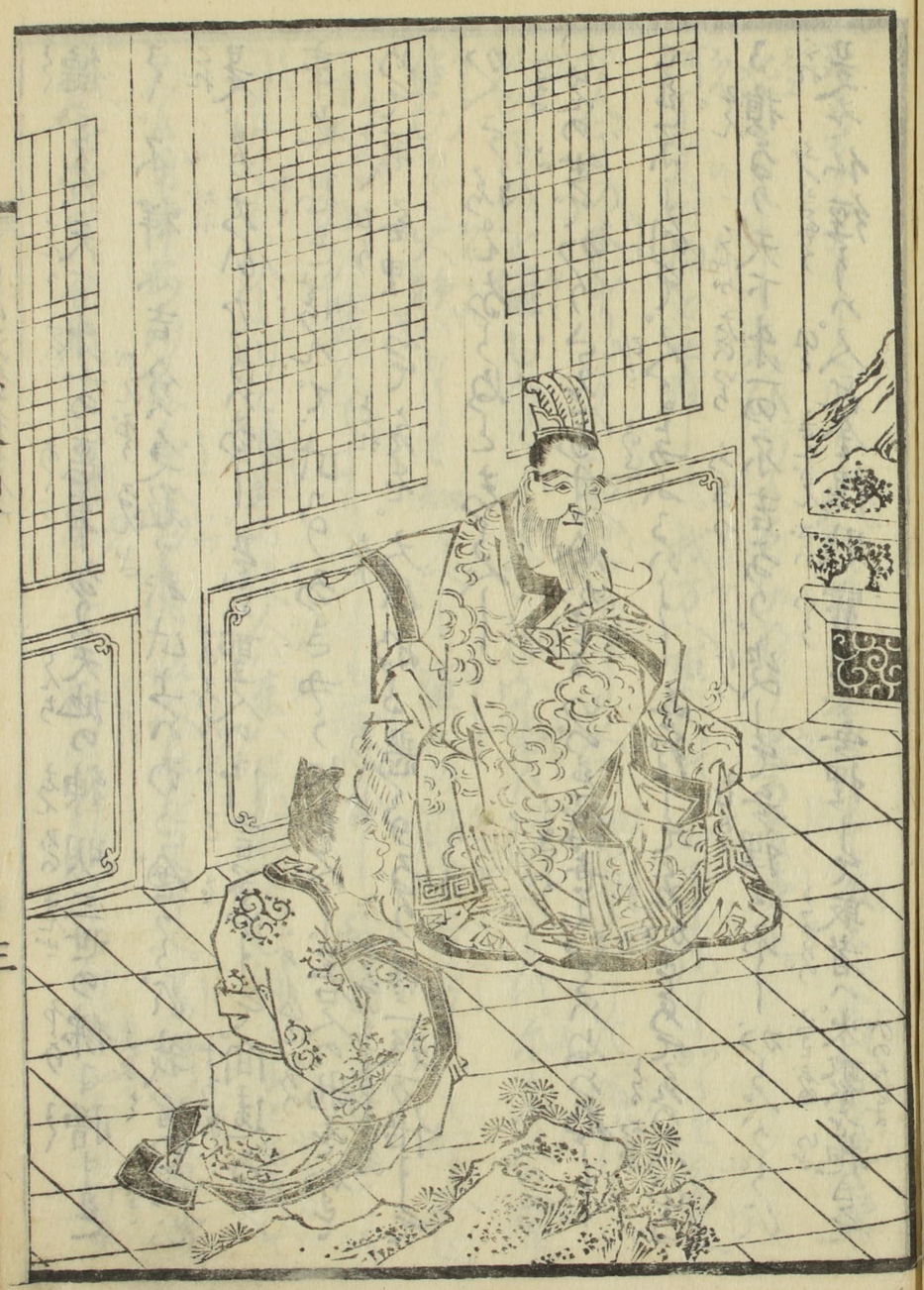
富士吉田市歴史民俗資料館蔵書
3456
5

一 金銀錢をしがりて。無理非道致さでゝ。ゆたかのくらぬ事 廿七丁
一 鍬後の高田ゝて金を拾ひ〳〵人の事 三十二丁
一 城外にゑふて金を拾ひ〳〵人の事 三十七丁
一 征と木奥の子のこむあ〳〵 四十三丁
一 世界中に人ゞ多本の置ぞこあい致さて居る事 四十九丁
一 奢り者は世上の役ゆ絶ゆ食とある事 五十一丁
一 家をよく治めて後ゆたまさこの花つゝをせよとゝゆゝ事 五十三丁
一 多智筭術行儀作法ゝ何の為ゆ習ひたるとゝゆゝ事 五十五丁
一 身をよく治め家を斉へ功を舟てゝ子孫へ渡すべき事 五十七丁

日用心法鈔後編下

孔子家語九に。魯の哀公孔子ゆ問ていはく。寡人東益を不祥と聞信ゝこれ何ぞ。孔子答てのゝく。不祥ゝ五つ有り東益ゆ陳かゝ。夫人を損ぞて。自かゝを益身の不祥あゝと外の四つゝこゝゝいふ。此心ゝ魯の國ゝ大名哀公孔子ゝ問ゝたまふゝ東益とゝ東北の鬼門へ張出ゝたる家屋敷ゝ不祥不吉と云ゝ。城ゝ左様ゝの問あり。孔子答てのゝく。天下に不祥不吉五つあゝて。鬼門張の家屋敷のみゝあらず。第一ゝ人の物を換して。我物ゝせんとゝ取ゝゝ大不吉ゝと作せられたり。天下ゝ大不吉五つ有る中ゝ其身一番ゝ人ゝゝ損をかけて。此方斗り

魯の哀公孔子に東益い
不祥かと問ひまつる所。
名誉こいまく西家の東ハ
東家の西あり誰その
極を知らんや



徳をうゝ。天下第一の悪事なり。天地の神明三世の佛ゝ憎ゝ給
く。不祥不吉貧乏窮困。此上なきなり。我身の災ひ
是より大ひなるなし。昔聖人の御言葉にて間違なる
事也。恐慎慎んで此なるべき。若人の物をかゝ
めて取。無理なる所なり。悪なるなり。皆一粒万倍にして
かゝる物をあらぬと思ふべし
○先の世でかりうをするゆゑ今かゝる。いづれ浮世。むくへぬ形
こゝろ不ふかくて。人を苦しめ。無理して。人をかなしめて。大ひな
る損なり。天下第一の不吉なり。必ずして無理なる不ふかくなる
事を仏經にハ人ハ金銀財寶を。無理して取者ハ火聚を抱きて。
死するがごとしといへり。人の寶を。無理して取ハ。火聚を抱きやけ
死するがごとし。大ひなる災ひ形なり。恐るべき事也。
何でも人の物を無理して。我方へ取こむハ。面てゝ盗ゝ。食を
なんざの本なり。よく動へ考るべし。人の物を無理して。取が徳なるハ
人のものを盗むなり。ぬすびと。人の物を盗むなり。不ふ人の物を
盗むなり。大抵ハ盗人の邪儀苦労あげてかゝへ。
一寸人ハ盗んでなり。少しも安心なし。我家に寝て居ても。
門がなくて。ひとりと捕まの役人ハ来ハせぬかと。むかふをと色考へて
居る。用事なりく。外へ出る時役人ハと思ふこと。門口意也
声をかけハせぬかと。用心をする。何ふつけ。かくつけ。安心なしの多

又人きしくゝあを遠形。一寸でも人の地を取たゝ。モウし世のへよ
りゝむ。死跡の所をる人をる。浮世未来ハ。うかむ世をる。又
大金ハ取ても。安心こきゝ事ハ。若安ん〳〵沢山ハ。きくを
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。盗人ハ。盗人ハ。盗人ハ。盗人ハ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

法で形し。律儀正直なる者は。福徳を
とゝふ事也。福徳安ん利根とゝふハ。学問非道と共に正直ハ
家業を出精をもつて。つゝしんで。倹約をもつて分とする。怠る
者ハ。酒宴歌舞を楽むこと也。又愚人の放逸者ハ。酒宴で居て。
楽ことす。是善人の慣心なり。
金銭をもつてかり。もつてもなきゆへ。
考へる故ハ法ハ。家を先ひ兄をもつぱらとする。いづれ
しても。家を治め治め家業を出精して天然自然の福
徳を求むる君子の道なり。
強ふ小山事をなし。
皆悪事ハ小事にて。盗賊伸罪なり。小人愚者ハ。福徳を潤
るの正道とさへ。智者の目ハ。悪事ハ。
福徳を発ふの道なり。
盗賊かゝるなど。
大邪儀大馬鹿の道なり。
古歌ハ
○くるやうふ目のこゝろ事と。知ずして。だまされ。
正直ハ。
福徳安心なり。福徳安ん
所世ハ。

盗んだらんモウ世の人でなし。死脚のおそろしハ是くおそれ遠ざかし。人くハ事と志りて。淫写愚こころを拘べかず。律儀正直が。福徳安心と。いつくもくべし

○いつぞん。悪ものをるせど。此世しし。せめくふかりて。ぞとこそ。

○きこまいるうき世を楽よ行なくバ。其行すくハ。地獄ありて。

盗賊ハ人の宝を。取よこいたりとちふたり。宝ちを不。こいる

盗人とハ。合点ものどく。久変数ひ居くう有し。龍樹ぞこの。

智度論を。入て。初めて合点ものどく。智度論の十二

書に自小偸盗よ。十種の罪ありて。もて言くハ人を殺しあ。

人の物を取人也。是ハ殺と罪と。盗ひ罪と二ちあり。是と

劫奪命とふ。二ちの罪ありて。此二罪ハ。此上なし。此罪ハ。此上なし。

罪ありて。此ものをまきたる人。此くいかる。此罪ハ。

盗人。ものくる。悪人小業して。悪人を遠離す。又罪を宮小

得きて。本ありし。秘宝を。皆奉行所へ引揚られ。不浄金

さいりて。楊くに仕来筋の人用と。ものくる。是宝取きて。

盗人小お遠ざかし。又貧窮難義の種を植く。死て赤条ハ。

地獄くに落て大苦脚を。ものくる。是くお遠ざかし。ホバ

盗人ハ。大罪義。大換。大馬鹿よお遠ざかし。此事とよく

志りて。律儀正直と。宝とちべし。律儀正直を安ん福

徳とおや志る。此ホ志りて。ものくお学ひあきて。宝り

いひそしがつし。又盗賊かつり。悪事をして。首を切る。
磔等の罪に行はるゝなど。更て罪は消滅さうと思ふ
人こゝろ。大間違ひ。此世で罪科よりかるゝは。華報と云
未来も又地獄へ落ちてせめらるゝを。果報といふて家とく。実と思て一程万
倍の責苦を受るなり。一度人に教せど。ふたびも万たびも。
教さるゝ也。此世で獄門磔ふるまゝば。更て罪は滅なるとも。
仏教を知らげる人のいふまゝ。こゝろふまりく。人の為と
かをもめて有。安程して有は。大換大義と知べし
人のものに盗る有。安程して有は。福人よるる。

を道と思ひしふ。貪を義の種蒔ハ知るゝんぶ。又かゝ
うし。財宝を先ふとハ思遠ナし。後らハ益をするを。
貪を義する如ハ損遠形。福人よるゝんゝの益なり。
猶ゝ貪を義儀なる如ハ添なゝバ。盗をせぬふ。何ゝどの
猪ゝたるゝ者をゝ。こゝろ。
出精して。そうくとくすべし。是と大利相の人中ゝ。
又偽ゝ拵ゝかゝさるんぶり。山事と云ゝ。人のものとたゞ
取ハも皆霸盗強盗の間ふゝく。貪を義儀の種蒔。
人ゝ此事とゝく云ゝて。律儀正直小業すべし。こゝれ
是理道ハ。貪を義儀大換の道と知べし。安程せど安程

いろ〳〵ハ。福徳安んの事ハ。人の道と志るべし。唯上をうんずる人のわどを志りて。ちいさ〳〵わりて苦しむ人。あまり多し。

苦労もなるべうず。

○誰〳〵も。死のわどゝと。変へて。変うり外ハ求めぬがよし

○誰とても。ときうりと。ろくべて。そ身〳〵のわどゝと志るべし

○上をうんずる人のわどゝ志るべ。しかバ。士農工商貴き安楽大論四十丁。衆生楽と求めんとする所よ。貪欲と生ず貪欲の所よ。瞋恚と生ず。瞋恚の所〳〵。苦と生ず。苦の所よ。罪と化る。是皆邪見愚癡より。起る事也。今ハ正憶念して。自他の福徳を修す。況世後世ハ。何の恐るゝ所ん

とゝ。貪欲山事とゝ。貪欲ハ。金銀さへ。あまたで。福徳安んと。

ゝふハ大切遠ひ。唯正直小家業を出精し。

貪欲しゝふハ。無理して人のあを取をゝふ。是を悪欲

ともいふ。貪ハ。盗人同前よりゝ。悪人の形ふ所の。福徳

ゝり悪欲といふて。いたづらに正直ゝ家業を

出精し。若事して。潤る所の。福徳ハ。真の利めして

若子ハ。親ゝ所の福徳なり。善欲といふて。佛神聖人

ふ。ゝ所の欲ゝり。欲とゝへゝを一がいふ。ゝとゝハ

罪遠ひゝり。若欲悪欲乃ゝけを志ゝぬ所なり。善欲ハ

ゝ悪事とハゝ。ゝして。福徳安心の来る道也。悪欲ハ

ところ〳〵貪を防ぐの道あり。善欲悪欲の事は。経論に
ゆきとゝのへ。

死の苦とゝは。是ぞ絶対なり。其
ゆへこは。十万石これより多し。古万石取り流は多く食物
茶こゝゝが殘りて。亜而ゞ多くて。こゝゝと作ぜられる
と殘く用〳〵事なし。殘〳〵は知行の多ひが福徳安ん
ゝへど。只死の苦とゝ知り。是事とゝ考へてゝすが安ん
福徳なり。世事とゝく考へゝ。又貪を石仕合も無世の
業因縁あるべ。仕方なし。唯正直に家業を出精をして暮
すべし。是ふく人の道は立なり

○貪福は天のゝゝと。聞時は徳とゝん。言乃事なし
○身の徳とゝて責へ。伊勢の神。人〳〵に教へ。天は世間す
松平越中守の樂翁様の御言葉
○行ゝも世ゝとゝ自世ぜず。たゝぬとゝとゝもうゞ福人
是等のこゝとゝく考へて。死の苦とゝ知り。是事とゝ考へて
安ん心〳〵へ。何でも人のあと。是程して有る人徳ふゝ
すして大損なり。安程として。富貴ふなゝもり。貪を出
正直に是事とゝ考へゝ。とゝが大徳なり。仏聖人は物乃
沢山ふゝと福人とは心ゝ。少欲知足の人と福人との
違ふ。海其少欲知足の人がなきゝ。世界が六ケ敷なり

上下たがひに強欲邪欲の横道ばかりなり。表は仁義ふるまひ。内心は盗賊かくすふ心。人のなんぎはかまはず。唯己が利徳のみをもふ人どもなり。上下交利を任て是を恥ずいやらし。人は相対を恥て恥ふるべきを大恥なり。何も今浪米穀のよけいなるが。福徳安んといふものなり。つゝしむべし。欲の徳と志ろ。欲知足くらしと。安福徳の人とは

憶忍記四 唐劉伯芻とて。禮部侍郎の官ふけがなり人あり。其家のおりてと。毎日米を買て。市ふ出てうり老たり。かくる時ふ服とうちぐ着をとらんぐふ者なりけり

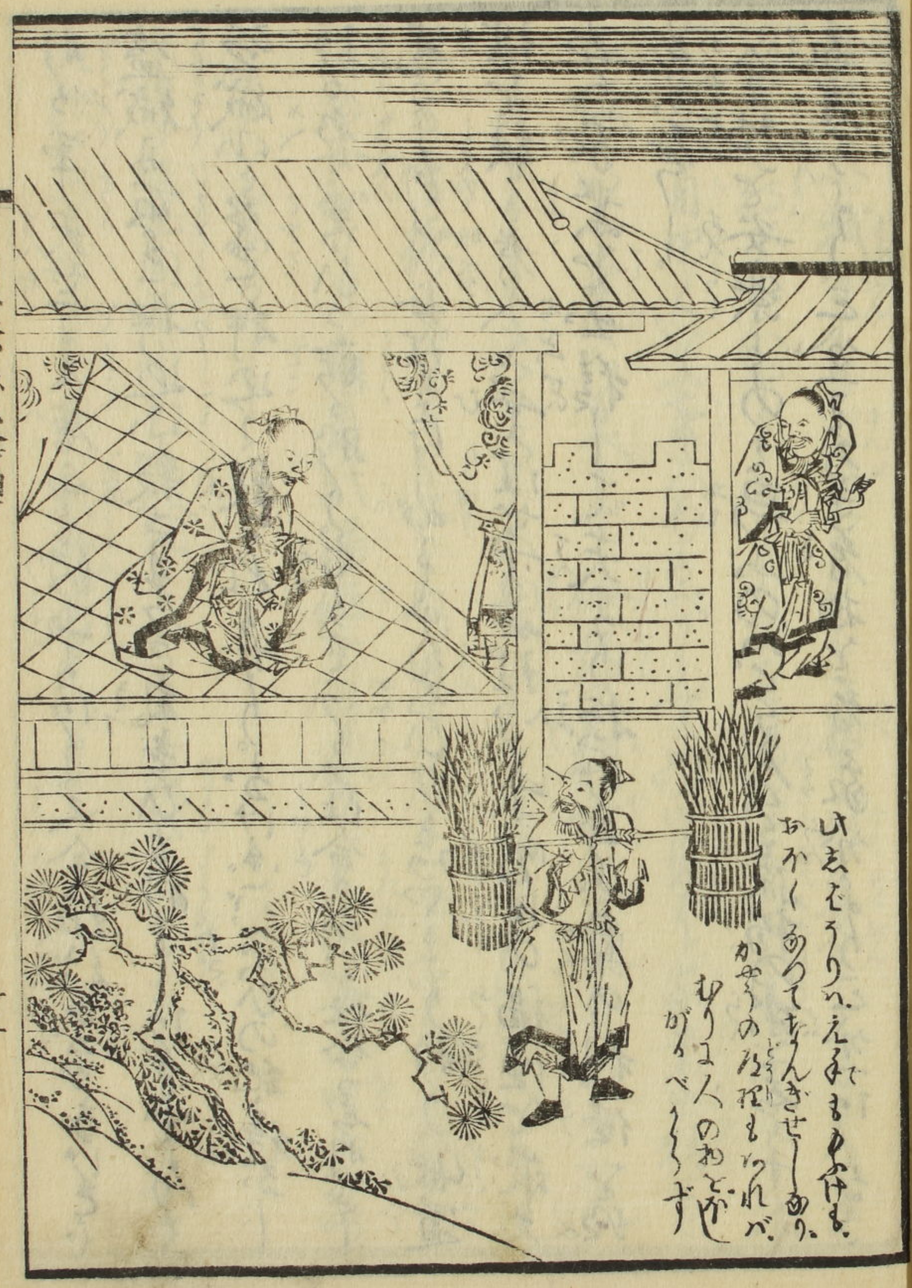
其門を通る男なり。劉伯芻つゝ是を見て。いつ門にうびつるこて。やゝけるやうふ。汝は毎日米と買ひ此門前を通る。何時ふ帰とうたん。やふるまこと。うゝ山しけを。我は壽よりはるへて。官ふなげかり。衣食十分ふ足ふ人なりまこなるを。心ふ考くようふかれたるがごとくふく。門外つくて。歌を安き心もなし。汝はふして。くしける考ぞ。心のうちたのしきなりく。如何ふ。答ふ。海山しく おもふとは中はまければ。心ふ言へていふやうは。我は城下の趙門のかたらふ九人は方のふ小屋とをのらん。唯一人すくて。二百文の銭とをひて。米を買。毎日市ふ出くく賣代ふし。

利かんとてこしもふけく。餘とくん。酒とのこて。小屋ふかくり。
ひざとつぶ染ていだき。ひざとまげて枕〳〵。彩とつくす。
家も衣食も。ゆたかく。科とあるさ孫ばをまもあく。たくさん
うる抱ものけれど盗賊のうもも。一盃の酒と友として。
楽とさうむる彩うと。言へつぶ劉伯翁ふうやう賢人
とハ汝が事也。今かし利潤ありくば。ぬもくたのかくれ。
殘を貴文とあらへらる。此男大ひふうつこび。孫よつぐ
しと。てうだいてゆりける。そなたろ日より。家多く蓄て。
賣ふ出。へる財ふ。見えいそづく。弄もうこうまくく。
万速ふ帰りける。かくて三十日を経て。かの書文の楽と。

拾乗りかへしてゆく。あくく生涯の楽ゆ紙は孫ゆく
笑ふいきり。家と若ひ出る財ふ。信濃ものを。
水くきりく。若ひ行。大ひふかんぎせり。む利かも言れば。
を巻ひのこと。少飢れらちよりく重で盗人見とて。
ひそふ来くる。とりやせんと。いそざ帰るかく。弄とうたふ
初めも聞し。いくだくの心考ひ。又出へふ乳とつけ。彼を仏く。
うもひくる。むるかざりなし。こをふりくあくくすて。
孫ありうんで帰りける。かく賢人ありて。鍬かるさ高人ハ。
今も昔もかうまるりとくく。此国縁ふ見る財ハ。何も金銭
のようひいあるぶ福人安んとつふふいるを。今の仁ハ元を

儲けも多くありて。金銀ばかりをあつめ。財宝をひとなりつくして。つゝしみ楽しむと考ふ。しかふえもとへとも安楽にくらして。安心安楽ふかりきり。世道理もつきぬよくく考へて。あまり強欲邪欲とかるくべしゝ。

沙石集八。宗任和尚のいつく。財宝けもだ。死と害し。名高けもだ。神いと害すとなり。強うハ金銀財宝の沢山さいつると。福徳安んと思ふハ遠なり。金銀財宝ハ人ゆへふ。身を害す事あり。左伯ハも愚人科ハ。宝を抱ひて智ハ宝がかけもだ。罪を科もなしふ。ふかうの人のあとを地獄へ入るべしゝ。



形ら事。天竺にも唐にも沢山にあり。又金銀財宝がおけまで盗賊ゐ取て。押込ひ殺さるる。氣毒ひも形し。ひるふらりく。盗賊ひ入ると押込て殺されるなり。おけまでバ笑ひの紀る程ひ。ひるふ形ら。笑ひ形る形ら。本らでひるぶ仕合。おいが仕合ら忘れがてぶ。是ふまりく。富貴ふ行しがるもの大ひなるひやまり形り。世道理を能く考へて。富貴せずに。世道の福徳を求ふ。家業と出精して。天より授けるふ。眞の利徳を知るふ。

○金銀と安樂とのを思ふのハ。ら。孤独の樂と志ずふ。自分らより。三分一ら。ひき者抱を者。氣分ら。三分一ひ。おき。

抱ひ。我分ら。三分一ら。ひき家ふ住。氣分ら。ひき家。道を。とおべし。かやうに。福徳安楽ひ。ひるべし。一生不自由ふ事ハ。ひるべしず。只世ふ。氣分ら。家出精せを。家儀ふ事ハ。ひるべしず。倹約の利益と志ふ。あらん。ものもうまくく。ひるい抱ひ。ひくくへる。ひるい家も。ひる。道理ひ。生抱ひ。ひるく。志ふ。用ふへたまでよいと志ふ。安楽ひ。諸の安心なり。寒角ひ福徳と志ふ。今。支ル小世の中ひ。ひつかゐいと志ふべし。

京傳ひ戯化問答ふ。ある人問ふ。いふく。病ハ表生ふ。ふと中すぶた抱ひ。でふ。ふ。傳答ふ。いふく。

○光の別。やーなふてゝ。人をしーを。みる目かけてきへぬ水よ。
とゝまれそう。古歌もかきまバ。病ハ。養生ふるる形ゝ。曾我の
鬼王がに百に病の故ひゝう。貪やどつゝいるのハなゝといひしハ。
金言かり。諸病ハ問も。多の病ハ第一の邪病ハ。
養生ハ。ゝゝく。おごりふ長ゝとて。大丈夫ハ。
そちまち。や初ゝ草ゝ。かゝへのたゞおちて。
ゝ。ふゝめんで。よいゝとゝ。又倹約と見ひ。養生と紙
初ゝつゝといふ。ゝ。ゝまゝゝ。
いふゝと。さんまのひゝのとでかけ。
ちやのゝゝゝでゝんゝ。あゆの塩やゝといふ。ゝ。

ゝゝゝんかゝゝですゝ。夜服ゝ。ちりゝんきゝ和と。きゝぬきゝと。
つゝむゝ。つゝむゝ。ゝんゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ふいゝ。ゝんゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝんゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝゝゝ

道とぞんじて考へ。悪き衣服味なきくらいをとゝのふ
べしと。仰るやうなる事ふくハ。道のお供ハ出来ぬといふ事なり。
何事悪衣悪食をぬんで用ゆるやうにすべし。天の冥加を
叶ひく。福徳ハ沢山に来るべし。當時
御公儀の御政事ハおろくハかゝしやうなし。有がた
き御代なり。悦び勇んで家業と出精とべし。世の中が
よろい。人氣がよろこぶ。何も中し分なし。唯
おごりの一事ハ。貧乏の元なり。上下共に
とゝふおごるなり。考へて居る。上下共に身分不相應ふ
奏るかゝ。國を亡ぼすなり。身をわろがすなり。驕の一事

うへ。ゆけ。ハ。安ん福徳の世に中なり。ふる大驕とする。
上下共に貧乏の元。儀家内ハ火の西ゞ降なり。ゆるまぬ極
といふべし。奏りの一字ハ。天下ふりて。天下とゝのゝ
國ふりて。ゆをわろがす。家ふりて。家をわろがす。
驕ゝ思ふ。おごりの一つなり。大悪の根本也。乞食の
下地なり。思ひ慎むべし。奇ふ
○ぶんふると。衣裳くひ物。ぬくもおごるハ家のめ門がくぞかし
○次の雨ハ。雖がぬゝせる。世ゝ。乳母のよちおごる一字ゞ
當時ハ。ゝ古代世の中なり。驕ゝの一事なる
なゝ。世の中がよるいやうにゝくゝ。山をゝられてるさゝ

あくだ。大安心の世は中なり。何事一切のこころある人くは。必ずこころ
二限も三限もひく〳〵書すべし。毒度は事を行ひ人福徳安
心の根本なり
清世肝要記ふつう。おごる人は。身はけだかくとかやうなりと
いくら。こいはいやくたてもこころ形る事なし。一度は貪欲の者は
のがきがくし。孫まで。一家一門の利くばぶべき者也。まづ一家
といくら。天の道とこころくは。天地たりたくと守り。身の分限と
能たりて。道こあくざるもてだ行あるず。若ふのこぼれば
くこせど。拙き万事屈くだりて。人の花繋おごり成
うくやまず。酒宴美食色情をこのまず。身をもかざるず

道と楽むあく貪ともくくこ酒ず。邪欲おけもば。けだかく
しく。富る人くるも。心はまもりもとり。ほもば身はいやくた心は
けだくおて。世と清るべしとつり奇く
○姿こそ。山のかせぎふ似たり。心は花ー。おさだ形ちん
人くん清の一大事といは。唯善とおして。悪はふもせぬふ
すべー。悪るさへせ拙びあまりの雑儀はおさるものく。悪るもと
しては。形俗はしはかとこころ。悪ふは悪度若敵ひ。
悪ーは悪度悪敵あり。良を棟もだ。良ゲ生。麻と棟もだ。
麻がくくる。凡のつふ。苟まはあくぬものの形り。二毒あるも
なり。善悪若敵ひあくんだ。乾坤必ど私ー有んとは。邵康

節ゞ格言あり。是ハ易の大上なる人なり。善因善果惡因惡果毫
厘も分違ひなし。善とすべハ福徳安心ぐゝん付也。惡とすべハ貧
窮ぐゝんぎぐゝん付也。是ハ仏定法なり。天地神明ハ私なし。いづれ
も善惡の報ぐゝなり。善とすべハ善とすべし。惡とすべハ惡とすべし。天地神明ハ動ぐゝ
なし。善とする者ハ和女なる者ハ惡安事ぐゝ。是ハ
仏説なり。ゆめ〳〵ゆめ分違なし。為信作して善とすべし。
○非義のさかへハ夕紅の雲よ。ひろ朝日ハきえて也。義堂
○やぶかゝ〳〵ゝ果ずゝ。かゝ生てゝけれ 芭蕉
○草かゝず。雲ハ白ハ白ハ也。やとけて。雨果ハめぐる小車の如
ふてゝよく知ゝ給ふなし。ゝぬ大事なり。ゝ人世ゝやとゝふ事ハ。

惡逆ゝ無道の者ハ。宇宙の内ゝ。容場なし。人間の家ハ
せまくなる。ハゞ生ゝ生なるふゞ。ひろき天地の内ハいるゝ。
但なし。ハゞ生ゝ生ゝ場ハ。天地の内ハ道なくしてハ
但あゝ世ゝ生ず。生道とゝハ。生人ゝ忠義。親ハ孝行。
仁義礼智信。是人間の為度通るべき道なり。是を生徳
要道とゝふ。福徳を得るの肝心要めなりとゝう盗賊かゝ
ゝハいゝゝ及なす。容儀として。人の物を取。山事ハしゝく。
人をだまし。人の死れ人ハ死のゝゝつぶをしゝ。かゝるぬ
ゝ人ゝ。ゝのけものゝ。ゝゝ思ゝて。我死ハ為をだ。ゝうする人ゝ。
天地乃間ゝ生場なし。人間の家ハせまくなる。

ふ。ど。まこと。もおろふ。悪事ときて。天地の罰ふ。めぐり
こみ。場なし。山事と。ちくと。ちくべ。不法罪。ひのて。多の
金。而形。し。罪。ひのて。いひろい世界。もどもくありて。ど
まこと。場なし。其。ちゃうこい。江戸。大盗人。ちう。形。く
きいりく。金銀。紙宝。と。ちく。形。く。孫。ふ。ひく。ちて。
を。捕。ど。隠。ぢ。せん。ぢの。形。切。ちぎ。強盗人。殺。し。等の。大悪。
ひのく。金。罪。ゆく。ど。信。小。盗。人。に。て。禁。ふ。かけられ。そり
山。大盗人。ふ。ち。ま。と。て。切。ぢ。ま。そ。も。実。ま。て。も。ぢ。ま。ぬ
形。の。ぢ。ぶ。形。り。を。ふ。ど。ふ。て。死。ち。と。覚。悟。て。心。と。薩
埵。て。表。仏。と。ち。て。居。ど。ち。る。形。く。大。兎。の。捨。と。ぢ。て。ま。方。ぬ。

実。そ。ち。た。心。ど。落。ち。て。居。く。形。く。死。ず。ぶ。居。ど。ち。盗。人。も。
死。ん。く。閉。と。て。て。居。く。形。く。死。ん。で。ま。ち。ま。ふ。ち。て。ち。役。人
形。も。ぬ。ぬ。ぬ。形。り。ど。ま。ま。れ。海。で。踊。ぬ。ま。人。ど。ち。く。ち。く。
役。ま。す。る。門。と。日。を。晩。ま。く。ち。ん。で。見。ま。人。も。ち。ま。ま。く。
帰。り。た。ち。や。日。も。く。ま。て。新。ふ。ち。り。た。ま。で。番。人。ぬ。も。
た。く。ち。と。始。て。居。る。形。く。彼。の。禁。ふ。り。し。盗。人。書。人。
た。と。ライ。く。と。び。け。ま。で。書。人。た。大。ひ。ま。ち。ど。ち。き。ど。ち。く。
其。方。ぬ。ま。て。居。く。し。く。人。で。盗。賊。ま。し。け。る。ち。ち。ぬ。ま。ふ。で
ま。と。て。切。ま。て。も。実。ま。て。も。そ。ち。ふ。く。ま。ぬ。ま。ち。り。
其。く。ま。と。落。ち。く。い。た。れ。で。其。ち。ま。ま。ず。ぬ。形。る。

でハ。大方金ハ紀ひ合いやうに思ふ。其方達氣と近く
くるとよ。そのからうふ。金子と沢山よ者ず屋しとい人で。男ハ
どもいふやうハ其金子ハいづこ。ふたりや盗人のいろく。去ども堪て
置ろう是ばかりだして。其方達ふ者ろすべしとつゝ書金
相談しく。磔の縄ととゝ。金子の置てこりる所まで一所くゆき。
金子のとこりを。男人一人よ。み指を見くきて。磔ようかり
し盗人ハいづくとも形く。逃ける。男人ハ。ハ指梅くく
くろうく。誰ら死骸と盗ら取りふて。相添ける侍盗人ハ。
其ふり悪事とや先て。今ことの罪ろぼ〳〵西ハ三十三番
八十八ヶ所社佛閣霊佛霊社へ参詣ぶし。日本を回ぶする

事十年ふり。ふ日ぶ。天下ふくぶかる大罪あ是。何
とふふ安ん世ぶ。世界せまくなりく。肩ぶすぐんで。ふ
かる事多し。ふ逃ぶ事ぶ知ぶて。御上意と声のか
ふたる時ハ大和形り。盗賊の内なりけ是。かる侍ハ
国和の身となりく。御上意と声ぶかり縄目ふ是
しをあぶ。大和ふりと。何ふ心ぶくふいふ
せまくふりて。何ふ心ぶくふいふ。いつそ。御奉行所ふ
京ふく。元の罪科ふ。ふこふハ是ふ。ふんと思ひ。文ふり
御奉行所ふ行京ふり。其時の者ふ
○世の中ハ。ふ人ふすふけ。ふ人のかぶぶ有なし

とんで名聞出そうり。善行形ばかり作せうこと様。盗賊かうり。何ぞ行ふ所まで迷たるうがくせ形り。ふうり其方ハ名聞出たるハ正直ありて。神妙也。そこや。門仕立ふ及ばず。いづもてくうた信者そ。勝負決す。かせぎと行ひ世をひろく言とべしと。ひしたる。ひうぐくなど書り門善行形を立出。夫うり諭の安いさなりしと形う。ふ生死ハ年も寿たまで。何年隆生と形ひ念仏がやしたいして。お所の回向院ばなの。為念仏の道心坊と。ふり。よく念仏と唱へて。月出度往生と遠しとあり。是ハ享保年中の事形う。かくる大勝不敵の大盗人。罪ハいくらなりても。かまはぬ善形う。ぶしもむくかけぬとりし。ふふふあくどいとハ。ふて。ふ角ふおいとえんて。度ハ世界ぐせまくなり。居形ぐあくなりくふ。ぶどもこもうぐ。出来ずしくぬ。ふあうり門ふ行形ふ名聞出で。又門成敗ようんと。ハ。罪科ハ悪ふとのこうんくうり。罪と作りうろき事と。ふてハ。たまうおい。天地のうふあどりこて。嘆ず。ひ事と。ふると。ふて。かしの為もせぬやうにせべし。為ぬ度ぬ為ぬ人

○善の中ハ人ハ。ふふふ。罪あまで。家ふとせもうぶふ。ふかう世界の通て相違形う。罪と作ふても。人ハふしぬりまでも。我ぐうくふりく居て。ふかうぶとせもう形う。迷やうも。のがき

やうもなし。何でもかでも。つくり〳〵罪ぞくのかんぎハせ様ぞう
ぬ。恐ろしきこと。白隱和尚の児女孫ひろさまう〳〵ふ
。うそ〳〵いうるとおのれが心。よいもうるいも学べくなり
。うそハ心ふ学んがあるぞ。人ハとも有まつるまつげ志ろ
。けものけものやうで外〳〵ぬるもどもむさいんハめ〳〵れまい
。ろ〳〵ゐんと心東でゆげる。まげゆやまが〳〵ぬろがん
とつりんの鬼ふるすハつるまつね。あゆなろすぎやせんだく
志〳〵伝ぎやというるまぬ。かし〳〵でも。悪るゆと志〳〵。心の鬼小
面つるまり〳〵。低さだけの罪ハ脊負て。地獄へゆき。せ先くとうけ様ハ
ゐ〳〵ぬ。心の鬼じやかり。逆やうもかり〳〵まやゐる。ずし〳〵中志ゐべ。

善悪ハ天地の真中へ押だし〳〵まつまつ。少
し〳〵かし〳〵中〳〵なし。又なすたる罪のばれやゐるもはし。拔らべ
かし〳〵の罪を馬るべし。ゆゆ者も汝をべし。善悪果悪因
悪果毫厘もたがいるし。此事をよく知り玉へ。
予文政七申の八月十六日。八ッ頃関東江戸小伯馬町
と通る時かすい犬が人の足ゆ心付。血ハ出られも
さのみ痛やうもなし。統て馬鹿と角よといふ人あり。
イヤ犬ハ及ぶぬといふ。イヤ犬の心角ハ毒なれば是非すべ
し。其ゆ付よ物まるりと。持〳〵ゆ〳〵付て心れる人もなり〳〵
うれまとちんぶりあり。其犬と見るよ人喰犬ゆ〳〵えぬ

ちいぶしてこれ命さきまがこし。其これ命れと仁へわすし
惰もせぬ。近所の人これ犬ぢやとゝいてこ賞さう。
棒状打ち叩むきゝ。犬ハ法方迯さもきたる大勢に
取まうん。終よおころまきたゝ。事の毒ち方あり。又文政八酉
の六月廿四日。七ツ頃浅草田原町へ用事あり。ゆく時
田原町蛇骨の湯屋の向ふの髪結屋の前の大さの犬
がこれこゝとやふまきと迯所の住事者が其犬の傍く
居る所と者口ぢ居りまゝ事まゝ訳して住事と周果
の究ぐる事早ひものあり事ようきを取くれと其時
状様よ思ひまゝ。舞へのない犬がこれ命くまゝ。訳のごとし

いるこんや。分別のなる人間ゞ人間ゝ疫とつけてハ。なまゝぬゝけ也。
支切て寂滅あり。これよりのゝ人の罪義ふかゝぬやう。
人ゝ疫と付ぬやうふすべし。たゝへば方へもんぎづかゝきぞと
付らまゝ。人疫ふハ。ぢそつけぬやゝにとべし。美つけゝ。
我身の滅亡の時と云べし。犬ゞ猫と取。結と取ても。其犬ハモウ
住旦ぢや。況や人間ハ往文の事と云べし。上下ふ公法法道
とすゝ。事ゝを報ひ事りて犬疫犬罪報とある。是ようて。
人の疫ふある事や。雑俗ふ形る事ハ。ぢそ状とべゝぢ。又人疫を
たるけとゝふ事ゝ。人疫ゝたるけとゝ。ふ事ハたゝゝぬ者と
云べし。ゝ人疫をたるけと。ふ人ゝ人ゝ。人さまの智ちの行

ると知らぬ。又前のたとへと。知らぬ人なり。人よたとへと
いふは人も物も。其志やこゝは。人の死れしの事を論じ考へ
捌かせうと。かしこも遠ぬやうにさだく事明白なり。我身乃
うへのうへは根めく慕うゝたつゝず。心ありよ忘ていね。智者も
学者も同じく同じく物なり。我死のうへのうへは。すこしもうへ
なせなきとは。我身勝れ。死ぬいきとして。ゝるものゝ。人の
身のうへ乃事は人ゝ也。我身のうへはあやまりと知りて。直
さねばならぬ。是を直さぬよ於ては。換和みして。身をあらぬ
す。何でも家死の恥辱と直すべ。世実の
至極といふも。家死とたゝの恥辱なり。いふ乃ゝ況

いふもの。せまりきと。せもふあり。是と志ると。実学よ
といふ。私欲身勝よりなき時は心昭く明くそなり。たとへ明
境のごとし。其姿端とうつる事。つきゝうなり。私欲身
勝よあら時は。是非善悪。混雑借乱して。知ぬ恥と。家乃
ごとし。私欲家身勝よあき時は。ぜん昭明なり。其志やこと
にハ。三國志の蜀と。すまハ。ふ人ハふ人。万人ハ万人。みな曹操
仲達が悪と勝く。玄徳孔明の義を好す。明君大野なるの
不忠と勝く。楠正成忠義を好す。是皆心よ依性ひき
なき所乃ふ人のせんなり。心本ひとかしも。ゆゞめぬ時は志直
みして。何事ゝも結直して用すゝ。彩角ちんと曲げて。質

金とをつかふ通用せぬなり。竜角ないとめるが世界ふ
いひくらがたへぬなり。竜ふ

○世の中ハきんこう流なりて。差〳〵かひたゞ者をつけまと
一切れ人〳〵ふ注意中度事なり。盗賊かゝる理屈事を
去て。大邪道大拵大馬鹿ふなり〳〵。先祖父母兄弟。
親族つけ一家一門の親よゞ〳〵と去ても。盗〳〵かゝる理屈をす
るゞよいう。又忠義孝行仁義礼智信の。至徳要道と行
ひく〳〵。先祖父母兄弟一家一門の。名と揚ることたゞ
して。智者賢者ゝとゞまて。福徳安ん〳〵暮すゞよいう。行れ
とゞれなるゞ。返言なり。早〳〵

皆〳〵拵の返言ハ知ることゝ事〳〵。忠義孝行仁義礼智信ハ
ゝ〳〵ゝなりとゞるべし。至宜要道ハ国へたゞ。宜要とゞ
去て。行ひ出るハ。安べゞ〳〵。行ひ出ると称ゞ。宜要ゞ
いふ注返〳〵ハ業名なり那〳〵。唯ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
行ハゞ名ハ名なり。行乗悪〳〵ゝ行の。大邪道大拵と
去りて。最後服平〳〵ゝ〳〵ゝ至徳の要道と行ひ出へ忠義孝
行仁義礼智信ハ。大功徳ハなり〳〵と知へ〳〵。此事
と学ぶとのゝこゝんで。行ひ出ふべし。是ゝとゝく知〳〵〳〵。行ひ
がたし。いろんや知ゝ〳〵。行へ出ぬ善ゝ。唯尚分乃
利欲〳〵目ゞ〳〵〳〵て。始終の大利徳と考へ。残念ゝ方ゝ。

何卒しき教へとなして。よき道と通り。大福徳安心と仰ぶべし。人く富貴とゐんとなくば。仁義礼慈悲忠孝とちゝ母ゝ。其外と親ゝ及び。唯道とちゝた。佛神の感應は速うなしん。ふるよ今の世は人は其家の富貴子孫繁昌と祈ゝ。邪智邪分別をゐのて是を求む。是そは。轍と申よして。南の越さゐんとするごとし。愈行て愈遠し。

成就する事あり。唯正直心と申く。善と行ふべし。

○出世とは。せんとゐは分とつゐて。よき事ふのをんうりせよ。世間の通ふ心はよ。世間は通りふゐるべ。見せだやといふなくいとく。天道は善ふ福し。淫ふ禍とあ

りて。善行の人ふは。福徳をあゝく。惡行の人ふは。貧乏窮困苦しれ。福ひとゐくもの。天地佛神の明白なこゝがゝず。人間の書あり。掛ねとこゝがる。天は罰とゐゝもこゝがず。借倒げきゝふないして。陰くのびくゝよ拵金は。大ひなるひやまうあり。早く善をなして。是とこの惡をつくのふべし。居ざんそくふあるとめゝて。今こと負ゝこゝ不忠不孝不義の借錢は。たゝよありても。水ゝなりても。償ふ孫でもゝ。ゝ也。ひとゐかちをゝゝずゝ居ゝて。ゝゝて居ゝて。地獄とゐゝ。閻へもゝる人間の借錢は。ぬんさんもあるゝふゞ。天ゝりかゝゝ借錢は。二進も三進も。ゆくゝものよりゝず。平日ふ。不忠不孝不義は

借銭とせぬやうにとくべしとていろ〳〵通りよ相違なし。ろくく
んの潔て。天よりの不孝不忠不義の借銭とせぬやうにすべし。
其天よりの罪科の借金とせば。元金八分倍百文倍の利を
付て。一文一文まで急度勘定して取立事。御役所金
名目金なりとも。ゑどゝ。恐を怖んで。天より借金とせぬ様に
すべし。何わどほ〳〵がりても。毒虫邪道として八ゝふのるもの
よあるべし。佛神がゆるし給ぬ。佛神のいろ〳〵ものとぬ
世間一面し。大損となる。一粒万倍として。かへさ徐だなるぬ
○此の世で。かりたとあるは。いまかるる。いづも信せよ。むくゐはなし
といふ。奇妙そもうく。ゑるべし。いづも天よりいろ〳〵あきあはふ

のりがあり。其まゝとい。
迎世見聞わり先輩よ。紙後の國高田の者（神不稼の者 伊勢略下）の或日
二階の窓より。見るよ我家の前よ。新角絹の賊布落ち
ゆく。是ハすき仕合なり。何でも志めゝと急ぎ出ゝ見るよ何も
なし。扨如何ぬ事ぞ。唯今まで有し紙布ぬなゝ。不思議
千万なり。暫くまゝ。又二階へ上りて見れば。始の通りよ紙布
ゆく。又出ゝ拾うんとまゝ。何もなし。まてめんやうかまて
なりと。又二階へ上り二階より見るよ。又なりて
うんとまゝ。何もなし。三度迎新のゝ何でもなりうんと。
見れ四のやうよして見る。更よ見るとぞ。てもなり

入ごと。けうり不思議さよ。人やあうとうと窓すり見て居る
りしに一人通りかゝり。是ぜひひろい事を。急よ走り出夫を
拾ゐが落せし金財布形りい方へ落しゐたとゝいへば。かの
者二四直ある金入財布にて。伝へさるゝよりと二三日もなく賊
布の伝まく。源しきゑ。小男清兵ゑ。裏伝賊布ぜ云ゐきき
見事ぞ。中よ金拾両。これ御付の仕合なり。もつゝ。実へ
我ものよいうゐ。金子なり。夫とうの者云ゐ。なよ我色
よ入ゐりと思ひ。彼者よびゐ。ちてゐ。そこもと云ゐい
らもられこれよ。是ぜ進ずとて。金を病者きれば。
かの男大ひよろこび。是へ行ゐがゝとい。ゐ。

家宝をとうてかへりける。えゝ貪老の事なもで。金を
ゐひ事。天の助とゝひ。此金子ゐて。あきないとせんと。
心安き油屋くゆき。此一あと銭け。油ゐひく。道を求まで
かうけ。持くとうゐるきゐ。ゐ。四ひの外。高貴盗賊
大分の利とゐ事なゐ。で。又外の悪とも。ゐあるきく。
小うせゐ聖年ゐ。金子拾ゐをけう。是ゐりて。
ゆゝ男ひゐ。是則最初一あゐひ事大見ゐ。その
人のゐかげて。金子拾あゐふけゐ。酒肴持て礼ゐ。
ゐけるやゐ。おまへ柳くゐ金子一あけゐひし。夫と元は
ゐくゝ。信くとかせぎゐ。則金子拾ゐ余り出来ゐ。

是偏ふ者ゝさまのとゞめありと。先代の横ゝの侍よかゝりしふ。ゑる面の男ゞ〜けるやうハ。夫ハそ伴ハ大仕合。日〜そ去年指ゐひろい〜接ハ。大病ゐて殊ゝ卯若〜ゝ。拾ひゐる九ゐの金ゝよハ。今月まで。ふ。巻ひとゝ〜たり。やゝ〜ゝ山部金枝いゝ〜せ〜ゝ中とめゝる。そ母ゝしけるハ。実ハ天ゝり裏弥さ接けゐひ〜金ゝなり。志ゝるふ家横取とゐせ九よ。長病ゐて。久安若〜ゝ。ゝ〜れ作ふゝんげせ〜ゝとゐり

折角ゝい塙和ゝいひくゝめて。横ゝ〜ゝる金ゝと。つゝい果〜ゝて仕ゝ〜ハ。業ゝ〜ゐり。金ゝハ巻ゝ果〜たゝまでえゝ

ちまぐる。大病して難儀せしは大損なり。こゝをふまへて考れば
無理は出来て。せぬものと知るべし。今みる田の老ふ人々ず
して。田舎の人々と云ふ。天より授けぬ事嶽ひあり
ぬ。無理非道は出来て。せぬ若の事。無理すまじいづる。大
抜といふ事とゝく考べし。唯正直にて家業と出精して。吉
凶禍福は。天より但せ。考べし。是智者のふさぎ方なり。安
心の大道福徳の根源と考べし。考へは易きふ居て。天命と
待とは実の事なり。ゆゑふ誰でも無理しても。取さへすれば
徳なりと思ふは。大罪過也
唐の魏徵といふ人。ある日部屋ふ休ゝ居たりしふ。二人の下役

次の間ふゝ物語すると聞よ。老人のいふゝ。日ごろ見聞ふ。
心願のなかゝひふあるといふ。又老人はいふゝ。家筋がふ
立候ふ。天道但せといふ。魏徵是を聞て即ち拳状を
添て。此人を没収と申付べしと役所ふ出しける。二人ふ
急病ふゝ申ず。天道但せといひし者なり。役義を更
なり。実ゝ帝釈天真人の義生今生の恩沢ひ
しりゝく。知しなく。貧福の果報とゆへふとゝへなり。
是と富貴天ゝなりといふあるべし。此後の人ふも。
貧福の理りは。知るべきなり。ゆゑふ無理ふ人の為と云ふと
考ゝて。而まる事よりこゝ。唯自然の徳行力ふ依く。

天くだれ授けのふと行ふ外なし。云程ふ出世たくがつく
さて。出来る事ならば。又天道任せふして。出来る時ハ
出来るものなり。拙者ども只天道任せといふて。ばかつとむ
べき役とうくつとあずかてハ。福徳の来らといふ事なし。やはり
ばかつとむべき役とうく勤て。そこ上の吉凶禍福ハ天道任
せとよろこぶべし。是と人事とつく〳〵考て。天命任せといふ是を
福徳安心と謂るの法といふ。学理非道と考てハ。悪るとなつく
大換乃道と考るべし。何でも俳徒篤実家業と出来て
仁義礼智信と行ふ人でなくてハ。福徳安心もなし。正直家業
出精する人で形くてハ。役に立ぬ人と考るべし

ひかぶくても。義理ばかりでも。かくまでもなき人やくしき色
〇安程いらずに立ぬ。かるうけ。かる人とハ。二者とも言ふ
又生質不機根にして。貧窮自慢する人あり。是ハ悪人の
中なり。不機根にして幸抱おき人ハ。何事も成就せぬ人
形なり。世ていふ不精者形なり。只人のあと取ばかりかんがへて
居る悪人と考るべし。口意の二業善めして。後こそ天命
といふべし。口意の二業悪めして。天命も福徳もなしやと
知るべし。天ハ此方れ善悪の行ひふりにて。其後吉凶禍福と
さづけもふはとうく知つく。忠義孝行家業と考ぬり
せんすべし。孝ずとても。福徳の来る事うるがひなし。考と

ゆひ申へ。家ふ止すりく。前ね左右をえべく。右後者行家業と出精とべし。世道理ふとげまたらんハ。手際ハ見ふたるも。又一件へハ一件へとたらべ。何程金銀紙宝とけ〻りても。福徳の因縁がなくてハ。かゝいぐ〻し。智恵ゆも戈兄ゆも乃ぞぬとのとたらべ。況や世理道理ゆ。百〻金銀紙宝ハ。ひぎるひのかめして福徳とゆふらべ。美福徳が求先たらぐも。只四亜〻家業と出精ゆし。自分お意の意楽者根性いくすべ。さ子ま。で。福徳ハ有もずたる来るべ。世理道理ゆ。邪智邪分別と以て。金銀紙宝求めんとるゆらゆ盗賊の因めして。いづも大猫ひげ来るとたらべ。世理道理

ゆし。世業工夫と以〻。人のあと唯有んとする者ハ無人也。仲のうゝ盗人ゆり。風と以ふもゆ〻べかゝず。又ゆもゆ。銭欲とかゝとゆず。家業と出精〻。正直小者〻さへを。ま。で。天ゆり宜安やうふ。ふ。ひ。ゆ。さらべ。手ゆう。こハ。天明の頃播州の者。家貧窮して。ゆ年貢役金苦に堪ず。毎年不足お積りて。ゆ。ゆ。ゆ

とも すべきやうもなく。そこ〳〵にして。國に かへり。家内
はなれて。ひとり。なげきかなしみ居る所へ。ちりてきたり。長
者の家に人あり。誰なるやと。近へ行ふ。冊人のいらく。貴公
小八何ぞ遠路起いるきやと問げ出バ。ひらてかやうに
伏めり。伏見の紅陽ふて。金子を拾ふ蔵しだらとい
世間男を金子をとり。紙布等を拾ひと間紀しげるう
写遠見ちいやうなるこバ。そ金子八日を拾へり。則ち金子ふ
ふ布名前の代沢てきるゝと書ゝ来ちり。出ゝ五要ゝ山ゝ生
かゝと。金子と紙布の俵ゝ。相渡しけれバ。是八貴しきかり
天ゝ作ぎ地ゝあるりてきるゝびけり。供夫ちりさゝ

なり。其金をの内指南とうけ。けたりふといへども。天下法度
していふやうハつまをもとめる者ハ。ぬん底なりと。皆しと
家おもうしていうでう世をなを。暮ひ来るべきやとて。婚
姻だけもうけば。國郡を回へども。いまだしく。まくふかく乱
らて。道といとぎ。大海へ出て。来航をのり。伏見へ行ぐり
けらふ。又伐布とひろへり。中あらためて見まを又金をみ
十面あり。自鬼ふも。不思議小思ひ。是ハ天より降ふ
恵をむるものうんと。所の神主ハ不思議へ
ぬ者の体ふ。すべしと。作せ付らまし。とあん。世人の正
直なりと。佛神も感じ給ひて。天より下ぐさまし。も

のなりべしと。そのころ。いひ傳へ形り。此事田舎話ゆえ
さらり
初めなる田の仁ハ。家鬼よりなるまで。金ハ生ぬ。是ハ天道ゆえ
たり。天道ゆえしめるとずして。是金をみのなくなるまで。
太病と。ひらぜて。病ハ分へしもふ又今の仁ハ。
十分あるとうたる金をうまて。國郡の知をてる金ゆへ。
家方と正直ふ。ひらぐ。かへ。巻ゆたり。是ハ来ふ
正直なり。世なる天道ゆえ。福徳とあるへもふ。
幸福と病ふ。あるへもふ天道ふ。ひらず。只正直
道理を極の筋さへ行なへば。和ども福徳ハ。沢山ゆたり

屋〜。心道ばかりを知り〜。もとゞ動むべきわけと紙つてゆく。
天恩賞ハ。天道ばかりなれば。何ようも正直小家業ゞ。
出精どころかと大徳ありさまを考へべ〜。三社の徳あも
正直ハ一旦の依怙ひわ〜ずと言へども。陰〜日月の憐みと氣
ゆきとなり。何でも正直ばかりして。真直ぐ世を送るべ〜。安ん
福徳は子孫ハあるべ〜〜。又先祖代〜より。伝へ来たる家ぎ
やうと仰りあ〜まこと実ふ勤めばかへべ〜。世上のあるとおり。
我ゞ若年ゆづり〜ず。至誠油断ず。家業と出精す
屋〜。又者〜人の為とて百工面ざかりすゝ人あり。至てよ
ばか〜かゞ〜ず。よく〜為と考へんべ〜。やり〜ふ人の為とば〜

かゞり大欲とかゝるとも。もふのるものふたりゞど。道理なく
して。人の為と為べ〜。大ひなる罪を得べ〜。ゆく〜貪欲す
屋〜。此屋〜。家業と出精して。天ようかさる。本の福徳を
頂戴とべ〜。唯人間ハ若根若事とすゞ後世を後とゝく
つゝ〜〜〜〜ばかりうびとゞさるハ。天道のもしば後ありたゞ
天道恐ゞ小して正べ〜。人間ハ賞罰小依怙ひいきなりて
油断なゞ〜ぶる。天道様ゞ賞罰の依怙ひいきなし。ぶん
ゞ。えんのこゝ〜。いきゝ〜かゝるものゝ。こゝをふまりて。
吉凶禍福ハ。天道仰せふ去て。於て。此方ハ動むべき善の行を
ゆく〜つとむべ〜。天道の事ハ。安堪として。大ひなる罪ひと

たるべし。若し強ふるくだ強きハよりうるを押たとしても
面べきなれども。是ハ行くく悪敵して。身の重かあるべ
からず。唯正直ふ。家業と出精して。福徳安心の大道と
通ふるべし。世の常の道より来る福徳なるべ。未無
と云べし。世のつきの法といふハ。正直く家業と出精する
事也。是をとうくつとむるとだ。安心小世とくく。又人の
用ひらるゝ人の所と形ち。人乃ち産をすること不正直
して。家業不精なるべ人の身ひもなく。人のよわと形ち。
人の家業とあり。後ふ人もかもりて面ふ和をつとる。
世事と結云べし。

普く世の人く苦く。富貴自在と云ふ。いつそ不可有ず。
いそげだ大ひよ福徳と拵ず事あり。急ぎ時節をまち
居く。時節きへ待てた。其歳の日和なりて。福徳自在の日も
ひるべし。是と待ざる時ハ大ひく福分と拵ず。天の思召よ
叶ひ。助ち求よる菓物田畑より出来る米麦等より迄熟を
形代ふく食ふ。若し薬方より取ふ。べ。てもまれ
ざるがごとし。時節に待よ云ふず。韓信ハ漂母の半分食代求
時へ。大愚よ云ふ。元帥とあり。その時より到く大者とあるよ
りず。時節の到ら無なり。又大公望ハ年八旬よ云ふ一人
の妻の愚を教ゆる事のみ。其用の時り

及んぐゝハ。天下り唯一命あり。時の到らぬハ是非もあるまき事なり。何ほど利根叢明でも。時節を待ぎゝ
くへ。其切い施しがたし。急角時せつ仕待よ志うず。木
よりゝ魚を求るより。退いゝ。なゝ仕結ぶ勝利
なりと志う歌
○さげゝしと色の花よい世がゝ蓑のいるゝ思身仕志ゝべゝ。
初ゝいゝ色ゝ。世志やでの事ハ。思ふ様ゝ。一つもあぬものゝ。世間
うゝ〳〵ぢ水志ありゝ。長ゝ縄ゝ九ゝ世角お。世の中とゝふ
事仕ゝ志ゝ。是と志ゝぬと。家内ハ治りがゝ。我ゝ
なんとすもバかゝ〳〵個ゝぬ事多ゝ。ゝ志ゝふ

世思も又安の福徳の本なり。此志ゝずよいゝ事なれ
者無一人もなし。地面株家督ゝあれバ。地面株ゝ
なるよ分ゝ。いゝ事なり。金銀財宝衣服ゝなれ。なの
ゝ付ていゝ事なり。黄金よい黄金の福ゝなり。官
位役義もゝいゝ事なり。ゝるけれバ
ゝるいよ分ゝ。ゝいゝ事なり。何ほゝずいゝ事の
物なし。何ほの家よもいゝ事なり。いゝ事のない家ハ一朝
もなし。外ゝ見る時ハ何もいゝ事のないゝ小見苦れ
ゝ。内ゝ志ゝ見ゝ志ゝ皆いゝ事なり。中ゝ下ゝ位ぬ
海上の山昔ゝ。あゝゝ神ゝ思位の事ゝ世。

こすう果たる世の中なり。
京傳が腹筋逢愛石といふ草紙に。証と。木魚の身の上ばなし
の事なり。木魚和証小向こいふやうに半紙なんどこうこうや
ま云い事ぞや。祭りやまどうのもろが祭りかりられく。
氣さんじる事もなるべし。又六十六部ぞやとりれ。名不
四海所見こまる。まる新柳八仕合る事ぞや。一生の癖といふ
ものなり。私等柳ぞ。佛檀の下ふところげく居く。賃い
世界ぞ。物まく苦します。唯抹香くさい匂ひばかり成。
かいく居てつまらぬ身の上なり。ほしわど仕合のよろい
者ぞ。なるまいと思ひます。とんばたき証のむり成ふ

りく。やんぬ事いやんな。又私が昔へなるまるし成ちく。
きうきうふう。先朝晩の四看經る和うれこ。なるまで。
やうまいむこ角の。ゆよ文。
記く。小云八百の四看經よこする。南世阿弥陀佛若イ者
なちおうさんく。南世阿弥陀佛むすこの甚六ぞふちく。
いりの迎祢く居るのおや。南世阿弥陀佛茶釜の下のすきま
多イ。二三本云ケ。ラット銅壺へ佛成くべすい。湯壺ぞ要よ
ろ新くなる。南世阿弥陀佛。色ついまるうし成きまいく
ちく。へりついなるうのむまい。荒神さ海ぞまるつい
ゆきとひ。才一腰く下への病成ぞ。れまよりく迫く

紙と本屋の
ヲのふぐあい

むをこれ一番ぢよむ

○朝ゆふよこぐとまどりのそこ紙ぶり
さぞや佛もおそ〳〵かるらん

むアさ酒の返事

○朝ゆふよゆふす紙ぶりハ浅世のたぬ
こぐとまどりハ家のたえなり

とうまんいる者くちけ。南無阿弥陀佛よめへぐふしこと。
すぐ髪かいてこともあい。朝七ツこうら。ものもらく長て。
まぐ者まま(ぬ)ぬ。てきむ況きもも野ぐい。おいく二人の者くと
仮ふ。三人のいぐくとぐあり(り)ものんども後くよ小云ツいと
者くく半なす。夫よたりと私一人の乳よいまぬ。ものの
やくものくたれい浄よ見こと半ぐ者い。ものが袖ものい。
住ものとて世口むりるあるぐ。すぐ業思ッ計い
一ちッ通くく居ても。ものまてくものぐふもれバのの
やくよ。長くかれわもぐむもこのらあくものもりれ
ハ三口もものきいもぬ。たくきいもこ

の墓ハいものげをもまれく。れくぐりくく者。何ぐよ。
ぐい不がりの乳とえ人。南無阿弥陀佛アく四神ぐ墓稲よひ
ぐく夜まるす物ぐもい。ぐものたりいふと。又ものこと
思ふく。ぐりとまる。南無阿弥陀佛者ふハさるる屋ぐ業
たくもんぐれよ。ぐりとるる。白稲どなるぬ南無阿弥陀佛
くくく下女ぐいるくく四袋子。さるるやぐ乳くすた。
何ぐりるる稲くく見よ。ものくぬよいもくぶりるとやし
ます。いもくハ百文よいりものこす。尋く見よ。百文
よハ四十とやくます。四十ハたりい。六十ものまりるとく。
南せ何弥陀佛四袋ぬ六十ものまりるとやしまもた。三

百文ぐらいの銭をもたるもの。たとへ百文。大きなものをもたり百文よりもちよ。南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 ヨヽ猫の有るゝ所に阿弥陀佛の猫よりもこまる。たんなる盗猫に何人の氣がもれぬ。南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 四隣の猫が来りました。いろ〳〵と逃すとる。アレ〳〵といへば其侍あれば。あれが今まだつこうをとサかうんきんもるが。さうるをうといふもろ。こりゃ。まんらんいとんやたりのころをあどりしかぬひよりろ。だ〳〵もうるるよ逃すまで此もうるもうとせよいりでもふ逃すまでもうもよこすまで。南無阿弥陀佛 アアいのぶつりまの侍ぐ〳〵るもものごゝらへもるるへりつ

いのふりへ。おもぐろに此とぶまとる。者長よりて。吹売をまたゝる。あどんつうんぐ〳〵もろい物をうりな。燈心うきたてゝ。かんぐ〳〵に畳へつりまして。ぬるる。ぬりまつゝふ。あてゝ。やいとだ〳〵きりるを隠翔よいく。つまみぐいを乳な。あれが留もるかを俳やみそづりを。やたゝよらふる。おし入の帖うろ小ぐれを見分て。ゝて祈りる。丈めゝ。ぐつも毛もんと序分ゝおけ。火消壺のふゝをもよゝ毛ゝおけ。いりでもろゝる。もゝ〳〵に。ア〳〵世話ぐやけりゝと。四念佛よりいと氏ゆす鈍て。ヤヽヨリゝ私ぐ真中ハ叩ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ

ちゝ。ふちの方ばかり。叩らゝ世てゆんといふと。男よ
たゝら。此鉦は音が良い。鉦とおれを。ばかるゝ者やがる
と。あるゝ時ゝれぬ。小さい。鉦も撞木のなりかゝで。
私も腹が立ゝなりませぬ。まづ夫だけうぎやない。
長者小不幸でもなりたゝと者よりうられゝ。捕の糸
ぐ。夜ゞ夜中まゝ念佛よ。叩うれゝ。人のあげさま。
ゝる者ゝ。夕部も。夕部ゝと。連ひぶよまうられゝ。
やぶ毛。太鼓と一所よ。夜ゞ夜中たゝうれゝなりさま
んぶゝとも者よ勢ぬ。迷子の〳〵三太郎ドライと。おどく
叩きもゝと者よ。今日は天窓ゞや光ゝ。こまりまてる。

豆いりでもつゝたい。半夜なんぶ。ふとんの上よ。孫ゝ
んぶゝ呑て。樂ゝ身の上ぶや。朝ぶんの。阿弥陀經
よゝ〳〵ぶゝ〳〵ゝ〳〵べ。夫ぶ〳〵沒月いまむ。ゝ〳〵半夜ゞ
うゝ山ゝ。ア鉦よるゝべい。ゝんなよあゝうれゝ。せゝる
物ゝ。鉦ゞゝゝきの。世の中ぶやなのゝ。いりゝ者ゝと
ゝ。祇や木魚ゞゝゝいゝ。ゝゝいゝ。人間の身
の上よゝ。商ゝゝいゝ。ゝ小云いゝる者ゝ者ゝ。是ハ
汝や。木魚の。身の上ぶゝ。人間の身の上の塩和
ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。京傳ゞ祇と木魚よゝ。
世ゝの人ゝ。不足ゝいゝを。ゝ者ゝ者ゝ。世界

中の人が。皆手を拱て。ふ將手をいひ合ひこしらへて。世界
うらみ。人ぜうらみ。己れと己れが。不足の心ぜおこしく。
おのもとおのもぶかるもんぐ者。人うら見る時は大仏合の
身の上あり。少しも不足のいひ合ひ。後りよ其身よ取
くへ。不足多くなり。如此な心持ぐは一生安からず。悪
むべし。何事足ぜもうく。我うり下ぜ見らぐべく我身は
福徳安心のある事ぜもうく。ゆうがこりでくも
なし。又福徳ありよ相違なし。人が軍物ぜ者れば。此方
も軍物ぜもう。人が綿入をされば。此方も綿入ぜもう。何
ひ分のない身の上あり。唯ごくなく。つがるくなく者

ぜべよと。足事ぜもうく。安心よくくすべし。上ぜ
見くも。切がるし。下ぜ見くも切がるし。唯身の
極を考うく。上ぜ見ず下ぜ見くし。安心よくくもべし。
足ぜ足事を考りく。福人とい。佛神は金銀紙寶
の沢山よあるを。福人とい変ぜ。仰物られず。只足
事を考りく人ぜ。福人とのもふこれよく。小欲
知足を。和身の寶とせべし。うるべし。上ぜ見ず。下
を見くし。ゆくべし。少しも。不足のふぜおこべうず。
不足のふらば。一生貧乏神よせられ。苦
む人と知べし。貧乏神とそ外よなし。貪欲不知足

の人の事なり。歌よ

○貧乏の神をいれじと戸ぢまを見れば我身の島

○上見れば思ひ出もなれ身なれども我より代人もおぼきふ

○寒うしてうゑずとよ思よべし。欲はさぐりの何る身でもあ

是等の事を克く得て。身のわど代を安くよくまじ。

又皆人が多本の置損ひを志く居る。唯家より上の者

を多本よ志く居るうて。いつも不足たらぬ者なり。

此方ハ何ぞ人ハ貧乏なり。何某ハ下男下女ともよ世

人除も使へど。此方ハ漸く拾人ばかりをふ。なるべ

金銀田地も沢山よ有。此方ハ如何ばかりあり。何も

かも事ふ小たらぬ身上なり。あの人なりなる時ハ此方の

くらしハ見るうげもなき事なり。此ゆへ小なぜ貧乏も

ると。我身ばかりなり。家の身筋の不幸きをなげく。是

已れが心より。当理よ貧乏神となる。是外の事小ゆへ

ず。我なり上の人を多本小志とかくの事なり夫なよ

いなぐも。貧乏神と思ふく居る。不智の甚浦なり。又我

なり下の人ハ千事とする時ハいつぐを福人なり。此方ハ

何ぐしなりハ福人なり。何某ハ下男下女なよ漸く拾人

ばかりあり。此方ハ。下男下女ハ。貳拾人の除もあり。

の人ハ千石取。此方ハ二千石取。金銀賤寶も何もかも沢

山よりの。此方ハ何事もの福人なり。ありがたしとよろこんぐくもそ是福の神なり。此ものこびい。何ものあるとおれば。我より下の人ハ多本と敬しとかの事なり。我より下の人を多本ふまれバいつぐも福の神なり。我ハ皆手本の置どこおいのないやふ。何ぐも乏より下の人を多本よりも我身の仕合のよき事ハ我ものこびよろしんぐくすべし。是福人なり。何も童子の沢山なるハ福人とハいはず。唯足事ハ我ものくを福人と云。又我より上ハ見ても切がなし。下ハ見ても切がなし。唯身分相應の處をもつて少しも上ハ見ず安心よくすべし。是ハ福人といふ。

不足の心なくおこすべし。若不足の心ハおこせバ。是を貧乏神と云。佛聖人の貧乏神と仰らるい。童子賤貧のあるなしの事ふさわしくす。唯足事ハ我ものを貧乏人と仰られあり。左様なくいハ叶ぬ道理なり。たとへバ百石取ハ弐百石取い福人。拾万石より弐拾万石取い福人。いらんや五拾万石百万石取ハ。猶福人の答なり。金銀米穀等。歳々たまり。沢山ふのつく。亜ばかなんうう。何不ぞうちやりくれよとあり。ふかの者なり。左様の人壹人もなし。三万石取のハ人もたくず。五万。十万。百万石取のハ人もたくべ。福德貧乏バ。何所よ

あらうもれぬ。たゝ足事を知るを福の神と仰らるゝも
又たのもしずや。貧賤なれども安んゝれば肥ぬとり。富貴なれ
ども心ぐるしければ痩おとろふ。是苦樂い貧の多少ふらうず
おろく足事を知らと。おろぐるとふ。ふる事なり。性よ人の物
欲ふしがり。性よ欲むる。欲。足事をもゝぬ人とふ。又人事を
勤ゝ。福德い天命よ任ゝ。安んふくゝも。足事をもりとよ
い人とふ。性よ欲むる。損の道なり。性よ欲むるとて。
金銀財宝ゞ中ゝ手よのる物ふあゝ。唯苦労むるのつゝ。
大損の道なり。此ゝよ佛神い。少欲知足を教へ玉ふ。
千萬なりゝ。唯人事をもゝ勤ゝ。足事をもりゝ。安んふ

ふくゝ易よる。欲深き者い天地の神明よ憎まれ。清人
小さゝれゝ。恥をかさ。損をる事多くとゝ。又云。想
云傷とふ書よい。欲深きものい百非をあゝ。欲淺き
者い百非をもゝ。此ゝ。欲深き者いろゝ。百悪
事をもゝ。欲淺きものいろゝ。悪事をもゝ。免るとふ
ことなり。此道理よ相違なゝ。此事をもゝ深くゝ。少欲
なり。人ゝ福德も安んも。少欲知足よりとゝ。何
事足事をもりゝ。福の神となるゝ。安んふくゝ。
貧乏小。今の世の中よ。足事を知らるもの。一人もなゝ。
たゝ。三百石取の所い。五百石取の事似をいゝ。五百石取

い。七百石取の者なり。足ぬ咎なり。勘定があらぬ咎なり。
考へぬ人百性町人迄も其通りあり。已生とおのれ貧乏
人となる。せゝ和とゝふ爲ゝ。又七百石取の人。五百石取のくらし
成ぬ。五百石取い。三百石取の者ゝ成ぬ。もうゝもうゝ
位なり。況や分量なり大ひよ。手高さゝしなれば中ゝ
仕ゝたらぬ咎なり。貧乏もなるもづなり。智ある人のなす
べき事とは思はれぬ。未いつまらぬ道理なり。初れ切なる
間違なり。末のつまらぬ事ゝ成なるなら。智恵も学文も皆弁
盤も。いくぢなし。元より世差世別ぢやうなし。学文や皆弁盤
は。何の爲ぞ習ひあるやうなれば。分ゝ治る家ゝ秩

へんが爲ぞ習ひあるなり。もうゝ不の禍なをもゝずもゝ事ゝ
不如意となるやうゝ。事ゝ成なるなら学文も十義盤もいくぢ
なし。何の爲ぞなるひたるや。是はつまらぬゝ
いひとけしゝ人。サアくゝ一言の中ゝ沢いあるべうゝず。何
卒末のつまるやうゝ事ゝ玉へ。末のつまるやうゝ成なるさく
つまらぬ事ゝ。いらんや始よりつまらぬ事を成なるく勘定い
あるぬ咎なり。足あるぬのゆゝ成なるく出ずず。入道と出る道ゝ
千義里の遠ひなり。名馬ゝ成なるも遅身があるゝ慣よ成なれ
なる万遠ひなれぬゝ。誰ゝも能成なるなる者あるよ。一人
も成なる人なゝ。何とゝふ事ゝ沢ぐなれぬたゝ。余ゝ大ひな

るたとひ人よりそしり笑はるとも苦しまず。人の
の利を取らず。一大事のことなれば能く考へて末のつまるまで
よく思ひ行はんと富貴繁昌なるまでふまじ。右孔の人
ぐなくてはならぬ人といひぐみ若亦末のつまりぬまでふる
ば。まる人なれば人万仲間よりあはずおこも仲間通るべし。
利根ぐちくさ口ハ江用

○入足と出る足とは。ふ天の足のうどくよりせ界の滅るべし

○人は唯上を目がつく。横よりまくよりは間のうふのあれ世の中
ふとふまりは上むきの方に見くだの方をえぬうるとこ
終る我完へはないずまくよりの完へもんるあや

まるるり人間も其通りなり。上の方むきの方に見くだの方に
見ぬうるとこ終ふ借金の渕へ落くる家に失ひ身に出ぬ不
を上を目が付く横よりは行くる何ぞ落るふ相違なし適
分と下ぐりの方見くよりは道に通るべしかしとふまりは手
示よりは書を向へ行と思へども是に人間の用うる見る
時は横へぐりの行るり又人間もかくのごとし人こそ通
に通ると思へども仏聖人の用うるに賢かきれると上の方
をこそ横ふむぐりの行くしあぶるくて見くるるとこ
こまち好へくる貧之とるるくおごりの山の頂より落く借
金の渕よりこがむ愚ぐんとしよべ

鉦と木魚の身の上むかしふかい。終合点をゝし。其方〳〵ふ取〳〵いひ分がある〳〵るれど外ちう見る時い何もいひ分なし〳〵と見へる。然〳〵バ不足のん様おこし〳〵。いひぶん様極くるい身の上ちうずの者とゝよべし。智者の服ちう見る時い愚人の大多見けなり。是等の事ハ氣様付ち。ろ様ゝ我方分様ちう〳〵。夫ちうも随分と下ちうすべし。是篤實の智者のおこるいまふ不ろり。私等や如何方の智恵や修行よくゝ見ちう。福徳ちう十分も貳拾分も来ちう居ち。如ち様ちうふ不足ちうり〳〵ふ思ふ大ひなるちうちんなり。然〳〵勘〳〵足事様ちう。安心よくちうをゝし。

是様身のかゝを能志ちうる誠の智者とゝよ何事ふよくす云ゝ気〳〵ふ世様渡るべし。何ほども工夫ちう。世の中様堪和よくゝ見ちうべし。夢の世とゝよ人ども夢助でい渡りがたし。中〳〵急度ちう昔労ちう。さつと志ち楽くゝ何事も思い定法通りよ志ちう。西ちう孫ゝ相渡不申候。急度ゝ定法様守ち中ふ安心も福徳もいくゝと志ちべし。爰の世ちいへども放埒すりむなしでい世の中ハ見たりがたし。天下の捉國のおちう。家の捉様能守ちべし。是様よくゝ守ち人ふ福徳も安心もいくゝと志ちべし。生涯不精い人のくもで也。放埒すりむ

○貧さうと富うも楽も苦みも夢ごこゝやうれ爰ごこゝ所。
爰の浮世とハいふさうれども夢助ごゝハ〻せぬ。急度こうゝ
正直よ持急度身ゝ修〻ゝ。急度家業ゝ出精せ孫ハ世
ハ〻ゝうれぬと云ふ。夢の浮世と云ハ唯口ハいふ〻ゝうふ
ゝ〻生皮放埒せよと云俗ハいふ〻ゝ然ゝふ爰の浮世ゝや
飲よゝうゝげよ一寸先ハ暗の夜ゝやといふ〻遊山放蕩色こ
のみゝうハ大百遠といふべし

○若ゝうゝ夢の浮世ゝうと楽このむ。人の長命。老のゝ食
此事の人代よ〻ゝ世ゝうゝ遊さん好楽このみ代。災〻ゝ生
ゝ〻ず。せ〻ゝ遊山ゝこのみ酒宴色情代。このむものハゝ

食宿なゝとゝうん事疑ひなし。古梳ふうむゝうの用意
もゝ〻ゝ先祖親達ゝ大恥代ゝうゝ一家一門の顔ゝ。
増れゝもおゝる爰ゝうハ放蕩生皮ものどもゝる。ゝれふ
ゝ〻何祝。難儀苦労ゝ〻も世の中代塩和よ〻ゝ。
べし。これを塩抜よ〻ゝ。孫ハ大損もあり。又人ふハ
ゝうゝよ思ゝん。又人の手下となりゝ。ゝひよ〻ゝぬ口
おゝさ事。ゝうゝめなゝ。是ふよりゝ〻何ほども。工
夫ゝう〻。世の中代塩和よ〻。是代万能ゝり
一人万芸ゝり一職といふ外ふ何ゝ〻の芸のふゝり
ゝと一人がゝ〻ゝず。我家職ふゝうとゝ人ゝ。後よ立

○きがきりてまれちびたるとのむらひ今のしびくぐ物もろふ
なり

○遊仕筆四ふも
やりくれをもる

無人とまるべし。なんぐも家業ゆよりつとめ。家業ゆよりつとめ。

家素まんぞくゆよりく養ふべし

○世の中ゆ。なんのへちまと思へども。ぶらりとまくらへ。くらすれども。

大学よりする通り。上天子より下庶人に至るまで。壹に是

身ゆ治むるなり。本と考とあり。是ハ間遠いなし。

外に何技の。藝能あり。とも。身ゆよりく治めず。家ゆよりく研へ

ぎまくハ役に立ぬ人とまるべし。先ハ大馬鹿の内なり。身を

よく治め。家を能研へるが。世界才一のほまれなり。世界

才一の利根なり。世界才一の上藝なり。此上藝ゆよりく勇

く。扨其後いろはさくの花見遊山。物まいり又ハ少く宛の。

立花茶湯等の手前の好く得まく。の藝のゆ。ゆ。

よく。是ハおごりといふ者ハ。ゆ。なぐさみ。ふもとといふ

ものなり。是もおごりなるゆ。其ゆ。又上手

ハ。なんともおりハ。ゆ。ず。唯我よしと思ひ。我面をつくと

思へば。それ。ゆ。ゆ。下ゆ。笑られても恥と

成べくゆ。ずもさなれば。ゆ。ゆ。ゆ。べし。手前の射

なれば。下手なくもよく。又上手なれば。ゆ。ゆ。

もとまる。きなり。又先生とゆ。家業ゆ。ゆ。時ハ。上手ゆ

ゆ。ゆ。ゆ。

○家業の道に対し一よく仕置さて其の後免角なる此界の通り小いもしるべ少しも中しづんなる人といふべし又出世文句小禮義正しく悔み深く家業大事ま才に守れとなり此通り小相違ふ此又時分よく人ん様に随分と人よりも身に引き少しも奢りなき事なるべうず又金銀の出道に拵へぬ中よりもべし身におさめ家に入るのみとなる事は至りむつかしき事也上の君子まよく治る事なし況やあみの者どもへ出もつく出来ざし出うれども何ほどと工夫なく塩梅よく治べしなひ何中の蔵なりとも何中の智恵なり

身に入よく治めず家に入よく治へどもなく何の役小も立ぬ人なるべし一生涯流浪して人の手下となりて人なり万能なりと一人なり先ハ生智恵の人なり学へ見るべし幼少より行義を習ふも手習十露盤習ふも数百巻の書に入るもこれ才に入おさえ家に入るのみなる治むなり外の事の入用なるひ毎ふ入らず此事に延ばるべし智者此ところ小力に入く身に治め家に入るのみなるべし是を我才の大役とて一生出精なるべし楽み又其中小あり是に誠のたのしみと云求めるべき楽みに誠のたのしみ小あるべず苦

しみの本なり。智者ハ此れを知る。愚者ハこれを知らず。又少欲知足の者と云ふ。自然の福徳をもとめ先修ふべし。又慈悲心ありて。身分相應の施しを致すべし。堂宮の奇進等も。身分相應ふ致すべし。中〻損といふ俗ふハからず。皆一粒万倍の功徳ぢ得るの道なり。されども随分と益なる事ふ施すべし。又時によりて。応接ぢうふる事ハ。其時ハよろしくさふ随て施すべし。ぢをほどこすハ喜捨といふて。すべ捨ることなり。されば此返報を。ゆんと思ふべ〻ず。唯よろこび捨べ〻。夫ふて功徳ハ無量なり。是も身を治め家ぢ秋へぬる事なり。おい袖いふれ思といふ諺よくも能きべし。何辛袖ぢふる人よなく称ハ役ふ立ぬと云べし

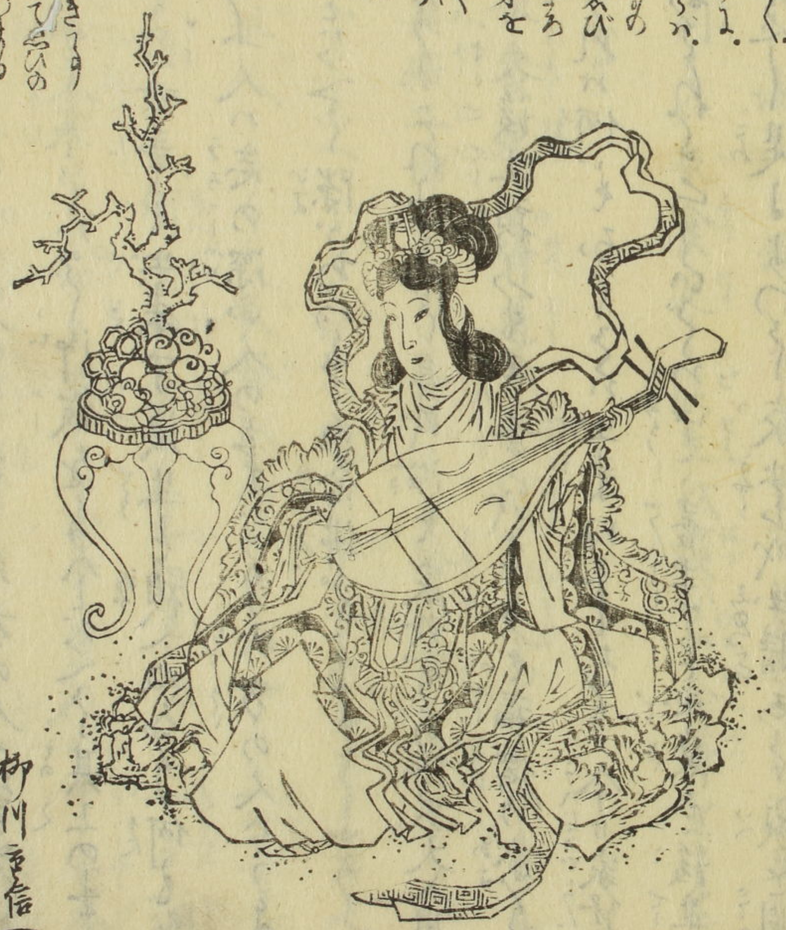
○惠まんとおもふハ廣もんど物もうるーや袖のせまさよ

人ふ施しうもうてもおい物ハほどこせぬ是よりも家業ぢ出精もう〻家ぢそ〻の人施をやる人よりも上の君子なり。もろひ智者呼もう。学者よむ了するとも身ぢ行さえず。家を整へぬ者もう。先ハ世〻智の内なり。智者学者ハ人ぢ道ふ導き。人ぢたもひ救の名なり。然るふ人の出世治ふ有り。人ふ損をうける抑〻。大ひなる間違ひなり。何ぞ智者学匠といふん。老人の身上の事ふ上ぢ。あすり人の出世治

ふなる人いよん人ゑいひぐ〳〵身上特のよろい人いどふまゝ〳〵も。人の世話ふるりぐちあり人様ふ云んをいひうゆ。苦労をうゆるゑ至〳〵よゑ〳〵うゝず。何卒人様ふ云ん合力ゆいうゆゆゝよまゝ〳〵。ゑゝ頼母子等も教きぬゆゝふいきまゝ〳〵。今日一寸とゆ近付。又ハ節毎竹のゝとげ人。飯うり親文ふも。此方うゝ施まいよゝ〳〵。此方うゝ毎んを云〳〵ぐうけつゆゆまゝず。教へも届うず。禮義も乱きゆゝ。一切の事是ふゝ〳〵合点まゝ〳〵。何ぐもうでも。一家親類人様の世話よゑ〳〵ぬゆゝふまゝ〳〵。其世話ふゑ〳〵ぬ根本ハ才一ゑ〳〵身ゆ修ゝえよ〳〵家ゆ戻へ移バ。出来ぬ事ゑり。何ふもゑ〳〵てゑ。

べんざいてん
弁財天のおいく。
はゝのそふりよ。
おこゑふ人いゝゝハ。
むこふかしきめ
ゆり。大黒天も来び
す三ゆゝもさでよろ
こびまゝ。才を
おさゝ心で正おく
おて忠義孝行
の人いゝゝハ弁財
天を津まといさ
ゝ。七福神と。
一家親和と
ゑる。金銀
財宝ハ心の
使ゆり

○商ゑ事もいきゑり
ばうりかさゑりてゑいの
まゝゑたゝゝあつまる



よしと云人の志の生ぬけさ人の事なり大方の人がなまくらりの
なれば暑くなく寒くなく沛飯をくらへたべく其上の事也
尤極なくくらい善事も出来ず後生を願へぬなり何もなく
ともよんとゝふ人の志の深い人の事なり大方の人はうまい
ものばかりたべく除がなくて念佛ばかりもゝふ位
の人どうなりこれふらく身が治る家がそのくるハ大入用の
事と去るゝ又後生願ふも善事がもとゝも福徳の余りと
ふるもあれば何もなくくらい出来ぬ事なり今日家貧喰
らの笑ふ。おくれるくらいぐらい中く善事も出来ず後生も
願へぬと云ゝ是よくく家業が生精出く家を調へ

善事が後生願ふべく乞貧でも後生ハ願へ
るべんとも同くハ衣食足く後生が願ひハ念佛を申ば行
ばよくくさなり
釋尊も衣食足く佛道が修行ばかり走ばよくくさ事ハ
なく是が真倍二徳をそなひたるよき修行者と作せらんなり。
又家が栄へるとゝ願ばとく望の通り十分ハ。
なくず。先祖代々よりの家督が段くくぬやくくす是も
家を栄へる因なり何程智恵ある覚ある人でも十分ハ調へる
とゝふ事ハ出来ずくく切も果もない事なれば中く十分と
云事ハ出来ぬ又浄土先祖親達よりも段くく身緒が

よく〳〵家来きんぢ〳〵を使ひ家門繁昌もるハ是亦上この家沈淪する人と云べし家沈らのくるふも限り次第高下のわる事也。何卒御先祖親達の優しく功沈付く子孫へ渡もやうふこそかゞべし是亦當職の第一ともるべ不あり。急度ふさうもるべ子孫へ功沈付く。ゆだるべし

目用心法鈔後篇大尾

目用心法鈔　三冊出板
同　後篇　三冊出板
同　三篇　三冊出板
主従心得草　二冊出板
同　後篇　二冊出板
同　三篇　二冊出板
同　四篇　二冊出板
同　五篇　二冊出板

天保九戊歳七月吉祥日

東都下谷金杉

壽福軒述

三篇の草稿も出来ことゝなりれるを直様出板仕れ其有増ハ

○世中候淵の屍の浮講釈○くれ初沈以て楽の第一とすと

らふ事○浮屍ハ何の為ふらふとゝふ事○八丈洛へんどの事

○永代橋沈通りしとゝ○大鯰とつりしもの○如意

寶珠沈えらる噺○利根ふありたくゝ金銀の一ツと持と

いふ事○金持ハ何と云てもやめらきるといふ事○貧乏
人ハ死ふ〳〵て何と云てもまらまる事○人の者ニハ任
かゝりて法合と仏安〳〵〳〵〳〵横ゐりといふ事一〳〵
證拠とおして云るしゝ中ハ如何縁軽口多けきを口なく
さゝふもれ成ハ百口徒ハさるべし

壽福軒藏板

日用心法鈔三冊出板　同後編三冊出板
同三編　三冊出板　同四編三冊近刻
主従心得草二冊出板